

# 新潟県中越沖地震 被災者支援ボランティア活動報告

2007.8.10(FRI)-8.12(SUN)

活動場所 刈羽村

主催 神奈川・新潟中越沖地震被災者支援ボランティアバス実行委員会

共催 神奈川災害救援ボランティアネットワーク及び構成団体

かながわ災害救援ボランティア支援センターサポートチームその他



## 参加者の構成

◆ 参加人員 20名(男18 女2)

◆ 参加地域ネットワーク・人員

川崎 1 横須賀 4 はだの 3

藤沢 2 相模原 2 海老名 3

逗子 1 やまと 1 横浜栄 1

大学院生 1

# 行程 その1

◆ 8 / 10

◆ 19:40 横浜西口発 首都高～関越～北陸

◆ 8 / 11

1:25 柏崎 常磐高等学校着 体育館で仮眠

7:00 同所発～刈羽村へ

7:40 刈羽村災害ボランティアセンター着

7:50 ミーティング

8:00 受付開始 待機所オープン

8:30 コーディネーター朝ミーティング

8:40 マatching開始

派遣先6箇所での活動

12:00 昼食・休憩

13:00 午後の活動開始(午前の継続が多かった)

16:00 活動を終えたグループから順次宿舎(高町ビレッジ)へ

17:30 夕食

19:00 夜ミーティング

20:00 ミーティング終了

## 行程 その2

◆ 8 / 12

- 7:00 朝食
- 8:00 高町ビレッジ 発 徒歩15分
- 8:15 刈羽村災害ボランティアセンター着  
受付 待機
- 8:30 コーディネーター朝ミーティング
- 8:40 マッチング開始  
派遣先8箇所で活動
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 午後の活動開始(午前の継続が多かった)
- 14:30 活動を終えたグループから順次宿舎へ  
シャワー・着替え、帰り支度
- 15:20 高町ビレッジ発
- 18:30 高坂SA 休憩30分
- 21:15 横浜西口帰着、解散  
随伴車は高坂SAから圏央道経由で藤沢・大船に帰る 23時帰着

# 刈羽村 避難所5箇所

	8/5	8/10
◆ 避難者合計	109	79
◆ 刈羽村第2体育館	33	28
◆ 老人福祉センター (福祉避難所)	14	17
◆ 高町地区集会場	24	13
◆ 赤田地区集会場	6	6
◆ ラピカ	32	15

# 写真でみる活動記録

## ◆ バス受付風景



# 柏崎 常磐高等学校 ボランティア宿泊所(無料)

深夜着にも係わらず

担当者は親切に対応  
我々を含め約40名ほど  
泊まっていた。

まずは仮眠

- ・ 宿泊は2泊3日まで
- ・ 水は使えたが飲まない様  
注意書きがあった。
- ・ 体育館内は扇風機と電気殺虫器が
- ・ 外気温は夜半でも25度あった

朝食は途中のSAで買ったパンで済ませた  
学校も被害に遭っていた。



# 柏崎から刈羽村へ

- ◆ 途中には被災家屋が・・・  
全壊家屋の取り壊しは  
かなり進んでいた



# ボランティア活動 まずは 保険加入

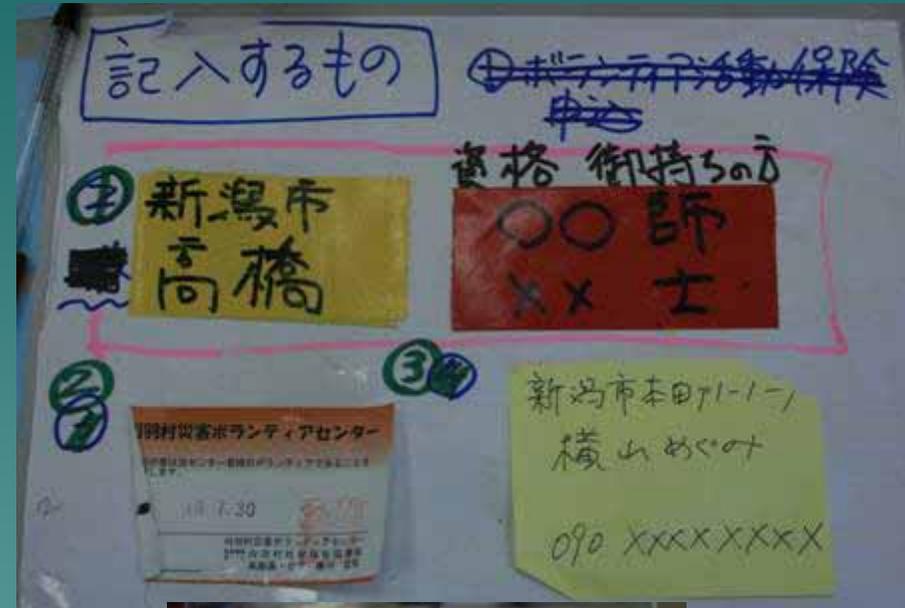
- ◆ ボランティア活動保険加入申込書
- ◆ 県内、県外とも同じ様式であった  
氏名、性別、住所、電話、加入プラン(天災A)



# ボランティア活動 手順 1 受付

- 1 ボランティア受付  
黄色ガムテープに  
市名、名前を記入  
登録証受領  
ポストイットに  
市名、氏名  
携帯番号を記入
- ・ガムテープを腕に貼る
  - ・登録証は首から掛ける
  - ・ポストイットはマッチングまで所持

赤色ガムテープには資格を記入



# ボランティア活動 手順 2 待機

- ◆ 待合室で待機  
掲示板から現地の状況を把握
- ◆ 待機中に、コーディネーターの  
朝ミーティングが行われた



# ボランティア活動 手順 3 マッチング

- ◆ コーディネーターが作業内容と必要人員を口頭で読み上げボランティアの募集を行っていた。
- ・ コーディネーターはポストイットを回収し地図とボランティア活動報告書をリーダーに渡し送迎車手配の要否を確認諸注意を打ち合わせて後送り出す。



# ボランティア活動 手順 4 出発

- ◆ 必要資材を調達して出発



# ボランティア活動 その1

## 被災者宅で

### ニーズ その1

- ◆ 災害ゴミの回収日に備えて家具類の片付
- ◆ 畳の運び出し
- ◆ 障子張り
- ◆ ブロックや瓦の廃棄処理 等々



# ボランティア活動 その2

## 避難所で

### ニーズ その2

- ◆ 高齢者のケア  
マッサージをしながら  
話し相手になり心のケアも

この方面の人材確保が課題と  
千葉さんは話していました。



# ボランティア活動 その3

## 避難所で

### ニーズ その3

#### ◆ 子どものケア

新潟大学の学生と一緒に子ども相手の活動もしました。

- ・大人が家の片付けなどに追われているので子どもの相手ができる人材も必要とされています。



#### 子どものケア

- ◆ プールを手配し水遊び実現!!  
子ども達は大はしゃぎ
- ◆ 水遊びをしたい！子どもからのニーズにボラセンではNO!!  
現場を理解していないのでは？

# 避難所の様子

- ◆ 掲示板には様々な生活情報が...



# ボランティア活動 その4 お風呂場で

## ニーズ その4

### ◆ マッサージ

入浴に来た方や  
浴場を運営している隊員にも  
疲れが出ており大変よろこばれました。



第9後方支援連隊補給隊は青森ねぶた温泉を提供していた

# その他

- ◆ 高町サテライト
  - ・集会場を利用してサテライトを設けていた
  - ・運営は男女各1計2名
  - ・道案内、ビラ配り(ニーズ掘り起こし)
  - ・ボランティアがセンターに帰る途中立ち寄り一息入れることが出来る
  - ・本部との情報取り次ぎ 等々
  - 仮設トイレ、消毒、飲料の提供など



# その他

## ◆ 危険度判定

**危険**  
UNSAFE

◆この建築物に立ち入ることは危険です  
◆立ち入る場合は専門家に相談し、応急措置を行った後にして下さい

建築物名称 小黒定行

注記：  
瓦、外装材の落下の恐れ

整理番号 6-4B-18

判定日時 7月9日 11時現在

刈羽村 災害対策本部 ☎ 45-3926



# その他



◆ 夕食はカレー



◆ 原子力災害時



◆ 夜ミーティング



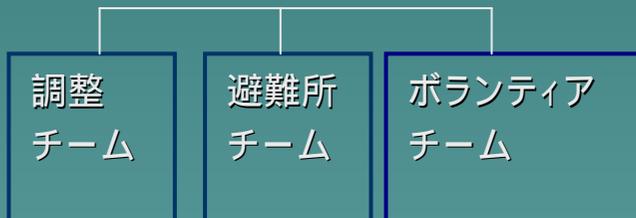
◆ 作業を終えて

# 刈羽村災害ボランティアセンター全景



# ボランティアセンター組織図

- ◆ 本部長
- ◆ 副本部長



# 仮設住宅

- ◆ 建設が進められていた
- ◆ 引っ越しもまもなくはじまると思われる。



# その他

- ◆ 大型店も閉店に
- ◆ 随伴車は派遣先への送迎に活用



# 夜ミーティング

## \*\*\*皆さんからの主なコメント\*\*\*

- ◆ ・荷物の移動をとのことであったが距離的に遠いのか近いのかなど分からない口頭で募集しているのでマッチング担当の説明不足を感じた。
- ◆ ・内容が紹介されないで、男性 名、女性 名など人数だけなど ニーズ内容が的確に伝えられていない
- ◆ ・保育ニーズは高いが、預かることができる人材の確保が追いついていない。
- ◆ ・子どもからは水遊びがしたいとのニーズがあるが応えられていない。  
新潟大のメンバーも必要性を感じていたがボラセンではNO！！
- ◆ 現場を見ないでコーディネートしているように感じた。
- ◆ ・今回現地入りするにあたり先遣隊の情報は大変役に立った。
- ◆ ・前日からの継続現場に午後から合流したが、リーダーが現場を離れておりその間誰が代理リーダーか分からなかったため、本日の作業終了を口頭で伝え報告書を提出しかかったが、その場でリーダーを決め報告書は必ず作成する必要性を感じた。

# 参加者感想

- ◆ 事前の情報や案内に不明確なところが多く当日の対応や準備に手間取った。
- ◆ 初日の朝食にパンのみの支給であったり、同じく昼食の案内がはっきりしておらず自分で昼食を準備した。
- ◆ 参加者としては情報がない不安は多大なものである。今後同じような企画をする際は参加者の立場に立った対応をきめ細かく行って貰いたい。
- ◆ バス以外に水島車で移動できたのは大変効率的で助かった。
- ◆ 各依頼先にボランティアに行くメンバーとは別に後方支援隊が食事等サポートしてもらえたのは心強く大変ありがたかった。
- ◆ 現場の体験は初めてであったが今後の活動に大いに役立てたい。
- ◆ ボランティアセンターの運営について、スタッフが地元の人でなかったり入れ替わりのため形式的な対応に思えた。
- ◆ 現場を体験して、自分たちに同じことが起こった際、日頃の活動の意義と必要性を改めて認識した。

# 参加者一同



◆ 高町ビレッジにて